

2025 年 1 月 8 日

2024 年度聖路加国際大学大学院

看護学研究科課題研究

助産師による未就学児に対する
セクシュアリティ教育の実際と課題
Midwives' Practices and Challenges of
Providing Sexuality Education for Preschool Children

23MW014

森田結子

要旨

目的 未就学児に対しセクシュアリティ教育を実施している助産師にインタビューを行い、助産師による未就学児へのセクシュアリティ教育の実際と課題を明らかにすること。

方法 半構造化質問紙を用いた聞き取り調査で、未就学児（3歳から5歳）に対しセクシュアリティ教育を1回以上実施している助産師免許保持者とした。研究の参加について本人から同意を得られた者に対しインタビューを実施し、逐語録作成、コード、カテゴリー化を行った。

結果 5か所の施設、6名の助産師を対象にインタビューを実施した。《身体と心の権利》と《生命の誕生》に関する内容が中心として伝えられ、【子ども達が自ら考え参加できる授業】とし、事前打ち合わせで子ども達の情報を収集した上で【様々な背景を持つ子ども達に対する配慮】を行い、【教育者の価値観をのせない中立な立場で科学的な話】を心がけていた。授業に対し子ども達は【授業への積極的な姿勢】で【授業後の言動の変化】も認められた。課題としては【セクシュアリティに対して消極的な風土がある】や【子どもの環境とセクシュアリティ教育との乖離がある】ことから、【大人（保護者や先生）に対しセクシュアリティ教育の研修を実施する】必要性があげられた。そして、助産師は【妊娠・出産・子育ての経過、命の尊さや重さを知っている】、【科学的、心理的側面からエビデンスをもとに中立的立場で伝えることができる】、【SRHR（性と生殖に関する健康と権利）ベースで伝えることができる】という利点があげられる一方で、【助産師の個々の価値観が反映されることによって教育内容が統一されていない】現状がある。このことから、助産師自身も【色々なジャンルの人の話や実際にセクシュアリティ教育を行っている人の話を聞く】や【包括的性教育を学ぶ】、また、これまで助産師として経験してきた【事例の振り返りを行う】ことの必要性をあげていた。

結論 《身体と心の権利》と《生命の誕生》に焦点を当てて伝えており、幼児期からジェンダー・アイデンティティは形成されることからジェンダーに関する内容を取り入れる必要性が示唆された。工夫としては、子ども達が積極的に授業に参加できる方法を用い、一人ひとりが大切な存在であると実感できる内容を取り入れることや、ポジティブな体験を提供する必要がある。課題として子ども達は取り巻く環境による影響が大きいことがあげられ、大人への教育の必要性があげられた。そして、セクシュアリティ教育は幼少期から継続的に、段階的に積み上げていく必要性が示唆された。助産師がセクシュアリティ教育を行う意義として、命の尊さ、重さを知り、科学的、心理的側面から中立的立場で伝えることができること、SRHRの専門家であることがあげられるが、中には個人の価値観をのせたり、断片的な指導を行っている者もいることから、助産師自身、包括的セクシュアリティ教育を学ぶことや、これまで助産師として関わってきた事例の振り返りを行う必要性が示唆された。

目次

第1章 序論	1
I. 背景	1
II. 目的	3
III. 意義	3
IV. 本研究で用いる定義	3
第2章 文献検討	4
I. 近年の課題	4
II. 日本における取り組み	4
III. 国際的なセクシュアリティ教育	5
IV. 未就学児に対するセクシュアリティ教育の現状	6
1. 家庭における未就学児に対するセクシュアリティ教育	6
2. 保育園や幼稚園における未就学児に対するセクシュアリティ教育	6
V. 乳幼児に対してセクシュアリティ教育を行う意義	7
VI. 助産師がセクシュアリティ教育を行う意義	8
第3章 研究方法	9
I. 研究デザイン	9
II. 研究方法	9
1. 研究対象者の条件	9
2. 研究対象者の選定と依頼方法	9
3. データ収集期間	10
4. データ収集方法	10
5. 分析方法	10
III. 倫理的配慮	11
1. 予想される利益と不利益	11
2. 研究への参加とその撤回について	11
3. 個人情報の保護	11
4. 情報の保管方法	12
5. 将来のほかの研究で情報の使用について	12
6. 研究に関する情報公開について	12
7. 情報の破棄	12
8. 利益相反に関して	12
9. 研究計画書及び研究の方法の閲覧に関して	12

第4章 結果	13
I. 研究対象者の概要	13
II. データの分析結果	13
1. セクシュアリティ教育の実際	14
2. セクシュアリティ教育に対する子ども達の反応	28
3. セクシュアリティ教育の課題と今後の介入方法	30
4. 助産師によるセクシュアリティ教育の課題と今後	37
第5章 考察	43
I. セクシュアリティ教育の実際	43
1. 《身体と心の権利》	43
2. 《生命の誕生》	44
3. 《生物学的性差とジェンダー》	45
II. セクシュアリティ教育における工夫	45
III. セクシュアリティ教育に対する子ども達の反応	47
IV. セクシュアリティ教育の課題と今後	48
1. セクシュアリティ教育の普及と大人へのセクシュアリティ教育	48
2. 発達課題に則した継続的なセクシュアリティ教育の提供	48
V. 助産師によるセクシュアリティ教育の意義、課題と今後	50
1. 助産師がセクシュアリティ教育を行う意義	50
2. 助産師がセクシュアリティ教育を行う上での課題と今後	50
VI. 本研究の限界と今後の課題	52
第6章 結論	53
引用・参考文献	54
資料	
謝辞	